

2012年6月14日

参議院議員

〇〇 〇〇 様

さよなら原発ヒロシマの会  
共同代表 アーサー・ビナード、青木克明、佐々木猛也、三浦精子

## 原発をなくし、エネルギー政策を変えるための賛同のお願い

〇〇議員におかれましては、日夜日本の国政に尽力くださっていることに敬意を表します。

さて私達は政党や宗教、組織や思想信条の違いを超え、下記二つの要求で一致する個人で今年2月に設立された市民団体です。

1. 制御できない危険性を持つ原発をなくし、ゼロにしよう。
2. エネルギー政策を大胆に見直し、自然エネルギーの本格的な導入をめざそう。

この会の呼びかけ人は添付しました通り、広範囲な分野の人たちで構成されております。(別紙を参照ください)

設立総会を含め、2月12日、3月11日、5月6日に集会を開きましたが、いずれも多くの方たちが集まり、この運動の主旨に賛同していただきました。

東京電力福島第一原発事故から1年3カ月以上が経過しましたが、いまだ原子炉は不安定なままで放射能を出し続けており、広範囲な放射能汚染で住民の生活と健康はおびやかされています。放射能は人間だけでなく、大自然の中で生きる昆虫を始めとする動物、もろもろの植物の生態系に被害をもたらし、将来に大きな影響を与え続ける事が懸念されます。

この豊かな大自然の生態系が影響を受ければ、食物連鎖の頂点に立つ人間にも引き続き将来にわたって大きな影響が出てくる事は必至であると考えます。

一方福井県の大飯原発3号機、4号機について野田佳彦首相は6月8日、再稼働実施の最終判断を示しました。これだけ国民生活に脅威を与えた大事故については、政府、国会、東京電力の事故調査委員会がいまだに事故原因調査を継続中であり、事故原因が津波であったのか、地震そのものによるのかさえ結論は出ていません。

この間多くの研究者や専門家たちがさまざまな科学的知見を明らかにし、今後政府がとるべき対応について提案していますが、このたびの野田首相の再稼働表明は、それらを無視し、原子力政策を「3・11」以前のままだに立ち戻らせようとする愚行です。

これでは新たな「安全神話」の押しつけそのものです。脱原発政策の実現を願う多くの市民にとって、どうも受け入れられるものではないと確信します。

この国の基本となるエネルギー政策を進めるにあたっては、倫理性、つまり人間のモラルを基準にして考える必要があります。「3・11」を受けて、脱原発に舵を切ったドイツは、まさにその倫理に基づいて判断を下しました。

過去から受け継いだ豊かな自然を、私達はそのまま維持し、後世の子孫にそのまま遺していく事が普遍的な人間のモラルではないでしょうか。

国政を預かる国会議員の皆さんには、ぜひともこの点についての賢明で、断固たる明確な指針を自ら示されるよう、切に要望します。今後この国の正しい方向性を、国民の前を歩く先達として私達に差し出して欲しいと願う次第です。

とりわけ世界で初めて原爆を投下された広島県選出の国会議員として国民の生活と健康を守るという立場から、私達の願いを理解していただき、野田首相の再稼働実施判断を撤回させるべく、行動して下さいますよう強く要請します。

大変お忙しいお立場であることは十分承知した上ですが、もし帰省の折などご都合の良い日時がありましたら、場所を指定くだされば、こちらからお伺いして懇談いただきたく願っています。ご検討いただけましたら幸甚です。宜しくお願い致します。

#### 連絡先

さよなら原発ヒロシマの会 事務局

広島市中区大手町 4-2-27-403

広島共同センター内

Tel: 082-245-2501 Fax: 082-245-2502

E-mail: [info@zeronpphiroshima.daa.jp](mailto:info@zeronpphiroshima.daa.jp)